

# おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）  
東京で大学・研究室生活を経てUターン  
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる  
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）  
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）  
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

## 「ここだけの話」

今回はほんとに、ほんとにここだけの話です。読んだらいいあんばいに忘れてください。

今だから書ける去年の夏のこと。ある人（男性20歳以上60歳未満）が仕事で、ある所へ出掛けました。風の強い日でした。ある所は詳しくは書けないのですが、下越地方です。阿賀野川より北です。町村合併前はN町といわれ、今はT市といえます。ああ、これ以上は書けません。ある人は、その地で営業が芳しくなかったことを嘆いておりましたので、私は親切にもはげますつもりで、「N（地名）ですか？○○○○○撤退して大変ですよ」と言いました。（○は某有名大手メーカー名が入りますがあえて社名を秘します。これじゃ分かって、の声もあると思うので、ヒントは、被るものです、○の最初はカタカナで五十音のスタートの文字です）

すると、ある人は「えっ？わかりますか？」というのです。私は間髪をいれず、「ええ、前から噂になっていましたから」と明るく答えると、その人は、「実は私、コレなんです……」と自分の頭を指しました。「あわわわわ、あきや!!!どうしょば!!!」と思っても時すでに遅し。

「いや、そういう意味でなくて、あの、頭髪関連企業撤退の話で……。言わねばわからんです」と必死にフォローにならないフォローをして焦りました。その人は、早口な私の「○○○○○撤退して」を、「○○○○○して」と聞き違えたのでした。

思えば、聞き違えて言った方も、言われた方も、あきや～、どうしょば、ということはよくあります。

特に新潟弁は、しょうしがってぼそぼそ話すと、とんでもない誤解を生ずることがあります。たとえば、小さい子や弱い相手と勝負するとき、手加減し

てわざと負けること、あるいはテストなどの採点で目みでやることを、「アメくれてやる」といいます。「あの力士、アメくれてやったな」となると協会こぞっての大問題に発展しますが、「まあ今回は、出席状況がいいのでアメくれてやるか」となれば、めでたし、めでたし追試免除で儲けものです。しかし、これが、あろうことか「いい人だっけアメっくったった」を「いい人だっけアメったった」と聞き違えられたら、さあ大変。まるで、こんじょよしの人は、色々気をつけてストレスで、アメたと言っているようでこれまた、あんばい悪いと思います。そういえば、このアメも頭髪の状態やそのさまを表す新潟弁でした。そのものの状態をよく表している言葉だと思いますが、あまり声高にいうてはいけない新潟弁のひとつでしょう。

方言には、誤解を招きやすいことばや、初対面の人に話す際注意を要することばがしばしばあります。たとえば、「け！」と力強く言われて、ぼかんとしたたら、「食え！」と食べ物を勧める意味であったこと（三条市の人から聞いた）。草取りで腰を痛めた人が近所の人に「しねば、いかったね」と言われ、ほんとに心臓が止まるかと思うくらいたまげたということ（旧豊栄市の人から聞いた）。いきなり「こいつ！」と呼ばれ慥然としてたら「来い」のなまりで「来いづ」（来なさい）であったこと（山形であった）等、ここで披露できないことがいっぱいあります。「ここだけ」の話は、「どこでも」の話、あなただけでは今度こっそりお教えいたします。

